

ひきこもり UX 女子会を 開催しました

杉並区では、1月23日(金)に「ひきこもり UX 女子会」を開催し、56名が参加されました。

ひきこもりは、従来、国の調査で「主婦」や「家事手伝い」が除外されていたこともあり大半が男性とされてきましたが、2018年以降調査の対象が拡大すると、女性が約半数を占めることが分かりました。しかし、男性が怖かったり苦手だったりという理由から、男性が同席する当事者会では話しづらい、そもそも参加しにくいと感じる女性の当事者も多く、支援の手が届きにくい現状があります。

こうした課題を解決するため、区では一般社団法人ひきこもり UX 会議や他自治体と連携し、「ひきこもり UX 女子会」を開催することとなりました。住んでいる自治体には相談しにくいなど様々な事情を抱える人も参加しやすいよう、参加者を杉並区民に限定せず、誰もが訪れやすいイベントとしました。

当日は、ひきこもり経験者が体験談を語る場が設けられ、参加者たちは話に聴き入っていました。また、当事者や経験者のみのグループトークも行われ、日頃打ち明けにくい悩みを、同じ境遇にある人同士で語り合いました。初めは緊張した面持ちだった参加者も、徐々にリラックスしていき、温かい雰囲気の中、イベントは進められました。併せて、ひきこもり状態の家族がいる方、支援に携わっている方など男女の別なく交流できる「つながる待合室」も開かれ、多くの参加者が意見交換をしました。

今回のイベントに参加した方は「当事者ならではの話を安心してできたのが良かったです。参加者たちは、背景や状況など人それぞれ違いますが、共通する部分も多く、安心してさらけ出すことができ、エネルギーになりました。」と、交流の場の重要性を語りました。

今回のイベントの運営に当たった一般社団法人ひきこもり UX 会議の担当者は「体験談を聞いたり、交流会で同じような経験をした人の話を聞いたりすることで、『自分はひとりではない』ということを実感してもらう機会になったのではないかと思います。当事者の方からは、『女性の集まりはとても珍しく、本当にありがたいです。』という声をいただきました。引き続き、安心して語り合える場づくりを進めていきたいです。当事者の方やご家族の方からも、一歩踏み出すきっかけになったなどのお声をいただき、引き続き支援を続けていきたいです。」と、語りました。

区では今後も、悩みを抱える人に寄り添いながら、誰もが暮らしやすい社会の実現に向け、取組を進めてまいります。

【報道機関 問い合わせ先】

生活自立支援担当：03-3393-0737

広報課報道係：03-3312-2111（内線1574）